

南山短期大学人間関係研究センター事業報告

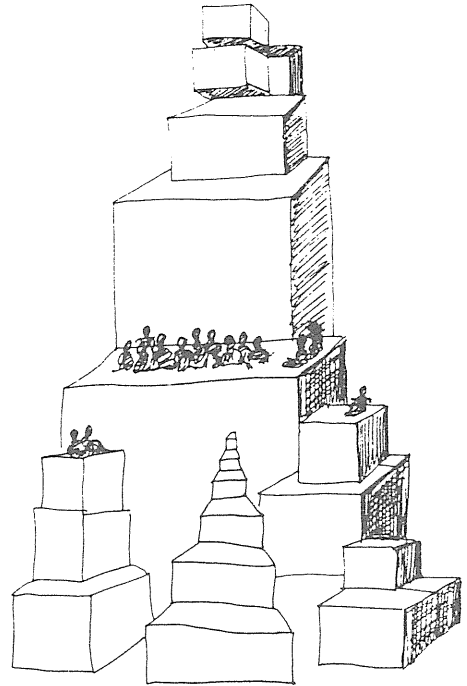
(1992年度)

事業概要	153
社会人研修	154
1. 人間関係基礎研修講座（一般研修）	154
2. 人間関係専門研修講座（継続研修）	156
3. 人間関係特定研修講座	159
4. 社会人研修参加者統計	160
コンサルテーション	161
1993年度人間関係研究センター事業予定	163
南山短期大学人間関係研究センター規程	172

■ 事業概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、1977年のセンターの発足時から毎年定期的に通講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果たしている。

基礎研修講座（一般研修）は昨年春秋3回開催され、既に32回を重ねている。基本的なプログラムは週1回約3時間（午後6時30分～9時）の研修を10週間続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基本的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触をもつことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として通講されている。中部地区では、初めての、Tグループを中心として人間関係トレーニングやTAセミナーは回数を重ね、からだごとことばのセミナー、ボディワーク・セミナーも多くの受講者を迎えている。又、新しく、ユング心理学、トレーナー・トレーニングも通講された。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座としては、ワークショップ「教え・育てる人生」、組織の中での教育に直接かかわったり、関心をもっている人々のための「ファシリテーター・トレーニング」も開かれている。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度「名古屋いのちの電話準備委員会」約100名の電話相談員の「人間関係基礎訓練」以来、「名古屋いのちの電話」は、1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助を続けている。種々の地域団体の研修プログラムをはじめ1989年度国立婦人会館、1990年度名古屋生涯教育センターからのプログラム開発に対して講師としてセンター研究員が派遣されている。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

第33回人間関係講座

開講期間：1992年5月11日～7月20日 毎週月曜日午前9時30分～12時

参加者：33名

担当者：伊藤 雅子・佐竹 一予

第33回人間関係基礎研修は34名の受講者に対し、1992年5月11日から7月20日まで10回にわたって実施された。

受講者たちは人との関わりの中で自分の対応パターンに気づき、よりよいコミュニケーションのあり方を探ること、グループの中での自分の位置を確認すること、また新しい人間関係を作ることなどを期待して講座に参加された。

今回の研修は「基礎研修」としての定型をふまえ、前半はコミュニケーションプロセスを学び、後半はグループプロセスに焦点当ててみるという理解しやすいプログラムが組まれた。しかし、今回の特徴としては、グループで話し合いをするときの自分を丁寧に検討できるような2回の実習「参加－観察、観察－参加（PO－PO）」が組まれたことがあげられる。

各回のねらい、実習および講義は次のようなものであった。

第34回人間関係講座

開講期間：1992年5月8日～7月17日 毎週金曜日午後6時30分～9時

参加者：26名

担当者：星野 欣生・中野 清

第35回人間関係講座

開講期間：1992年9月25日～12月11日 毎週金曜日午後6時30分～9時

参加者：34名

担当者：山口 真人・まどか 庸代

第33回人間関係講座全日程表

(1992年5月11日～7月20日)

月日	ねらい	実習	講義
No.1 5/11	お互いに知り合う 学び方をスタートする	「フォード・チョイス」 「講座への期待の共有化」	“ねらい”の説明 進め方について
No.2 5/18	「体験学習」の学び方を学ぶ 体験学習の中で今の自分に気づく	問題解決実習 「バスは待ってくれない」	「体験学習」
No.3 5/25	自分の話し方・きき方の特徴に気づく 人と対話する時に起こってくる事柄 に気づく	「一方通行・両面通行の コミュニケーション」 「聴く」	
No.4 6/1	自分の話し方・きき方の特徴に気づく (2) 人と対話する時に起こってくる事柄 に気づく	「たずね・答え・観察する」	「コミュニケーション・ プロセス」
No.5 6/8	無言の探求をし、様々なことを体験 する 自分の非言語のコミュニケーション に気づく	「ノンバーバル・コミュ ニケーション」 「目かくし探検」	「効果的コミュニケー ションのための5 つの要素」
No.6 6/22	グループで話し合うときに起こること に気づく 自分の価値観に気づく	コンセンサス実習 「108便」	「プロセスとコンテ ント」
No.7 6/29	グループの中で起こること(プロセス) をとらえる グループの中での自分のあり方に気 づく	PO-PO 「危機からの脱出」	「どのようにプロセ スを見るか」
No.8 7/6	グループの中で起こること(プロセス) をとらえる グループの中での自分のあり方に気 づく フィードバックのスキルを養う	PO-PO(2) 「危機からの脱出」	フィードバックとは
No.9 7/13	今の自分との対話を試みる	「Self Bag」	Johariの窓
No.10 7/20	この講座での体験を確かめ自分の課 題をさぐる	講座のまとめ	意志決定

■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

TA入門（トランザクショナル・アナリシス）

開講期間：1992年10月1日～12月10日 毎週木曜日午後6時30分～9時

参加者：31名

担当者：中堀 仁四郎

トランザクショナル・アナリシス（TA）はエリック・バーン博士（1910-1970）により開発され、彼の仲間たちとともに発展させられた心理療法の体系です。誰もが基本的には”I’m OK, You’re OK”の存在であるという価値観に基づき、”今、ここ”に気づき、自らが自分の在り方を選びながら、自分のOKであることをたしかめ、また相手とも肯定的な関係を作り出すことを目標にしていきます。TAは心理療法ですが、私たちの自分自身との関係や他者との関係の改善、楽しい職場や家庭づくりなどに大いに生かす事ができるものです。このTA入門講座は治療目的ではなく、自己啓発を目標として、1992年10月1日（木）から12月10日（木）まで、毎木曜日午後6：30～9：00に行なわれ、参加者31名であった。

ねらいと実施された内容

この講座のねらい：

- ◎トランザクショナル・アナリシス（TA）の基本的な考え方を理解する
- ◎TAを用いて自己理解を深める
 - 自分の行動の基にあるものに気づく
 - 自分のなかの可能性をみつける
- ◎自律的な人間関係のありかたを探る。

実施された内容：

- 10月 1日 自己紹介。TA概観。TAで大切にすること。
実習：いまここ、自発性 親密
自分のねらい：取り組みたいことの明確化
- 10月 8日 自我状態Ⅰ 自我状態とは。 自我状態の機能分析
自我状態を区別するための実習（1）行動、態度、やり取りより
- 10月16日 自我状態Ⅱ
自我状態を区別するための実習（2）成育史的な検討

- 10月22日 やりとり分析
 自我状態の分析の続き
 (エゴグラムと変革目標。自我状態の病理)
 トランザクションとは。トランザクションの種類。
 凍結したやりとりとオープン。
 三又鉾のやりとり。
- 10月29日 ストローク
 ストロークとは。ストロークの種類。
 ストロークの実習；いろいろのストロークの交換
 日頃のストロークの検討
 ストロークのタイミング
 ストロークの指数とセルフ・ポット
 ストローク授受に関する禁止令
- 11月 5日 時間の構成：時間をどのように使っているか
 スタンプ集めとラケット
- 11月19日 ゲームの分析
 自分のよくやるやりとりの検討。
 心理的ゲームとは。ゲームの実習。
 ゲーム分析のいろいろ: Formal Game Analysis.
 Drama Triangle.
 Transactional game diagram.
 Fomura G.
 実習：ゲームの三角形。
 ゲームを止めるには
- 11月26日 人生脚本の分析 I
 実習：ライフライン
 人生脚本とは。人生の流れと幼時決断。
- 12月 3日 人生脚本の分析 II
 決断の要因とスクリプト・メッセージ：禁止令と反禁止令
- 12月10日 最終回
 実習：自分を主人公にし童話を書く
 TA講座を終わるにあたり
 アンケート
 小パーティ

TAによる自己啓発セミナー

開講期間：1993年3月20日（土）～22日（月）2泊3日

参加者：9名

担当者：中堀 仁四郎

TA入門講座はTAの主要な考え方を説明し、実習を通してそれを理解することを主要なもくてきとしたが、このセミナーでは参加者一人一人が自分の問題を取り上げてワークする機会をより多くもつように行なわれた。日時：1993年3月20日～22日 場所：清里 清泉寮 参加者：9名

ねらい

- ・TAを道具として用いて、自分の中に潜んでいる能力、可能性を引き出し、自分のものにする。
- ・「気づき」「自発性」「親しみのある人間関係」を開発する。

内 容

第1セッション	開会・自己紹介 導入：私の窓（昔の私、今の私） TAグループについて
第2セッション	変革目標の明確化 : 個人で、2人組みで
第3セッション	家族塑像（1）作成
第4セッション	家族塑像（2）分かち合い、個人ワーク
第5セッション	個人ワーク
第6セッション	赦しのワーク
第7セッション	ファンタジー と 分かち合い
第8セッション	最後に一言ずつ

ボディーワーク・セミナー

開講期間：1992年5月23日～7月11日 毎週土曜日午後1時～4時

参加者：27名

担当者：グラバア 俊子

からだとことばのセミナー

開講期間：1992年7月24日（金）～26日（日）（3日間集中）

参加者：31名

担当者：竹内 敏晴

ユング心理学

開講期間：1992年7月4日（土）5日（日）18日（土）19日（日）

参加者：21名

担当者：木村 晴子

■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

ワークショップ「教え・育てる人生」

開講期間：1992年7月28日（火）～30日（木）（3日間集中）

参加者：9名

担当者：河津 雄介（聖霊短期大学・百芳教育研究所）

ファシリテーター・トレーニング

開講期間：1992年9月26日～1993年1月30日 毎週土曜日午後2時～5時

参加者：16名

担当者：星野 欣生

■ 社会人研修／参加者統計（1992年度）

講座名	場所	担当者	期	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職						業			年			年齢			
							男	女	市内	市外	公務員	団職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教会関係	主婦	その他	20歳以下	20～29歳	30～39歳		40～49歳	50歳以上	
人間関係講座						1,010	250	760	637	373	57	50	288	29	103	145	42	167	77	66	6	492	250	186	75	7
前回まで						33	2	31	23	10	0	0	4	1	2	0	0	19	1	2	4	5	12	8	5	3
人間関係講座 No.33	南山短大	伊藤佐竹	H4.5/11～7/20	9:30～12:00	月																					
人間関係講座 No.34	〃	星野中野	H4.5/8～7/17	18:30～21:00	金	26	4	22	9	17	4	2	6	1	3	3	0	1	3	1	2	13	4	8	1	0
人間関係講座 No.35	〃	山口まどか	H4.9/25～12/11	18:30～21:00	金	34	4	30	16	18	3	2	11	1	5	6	0	2	3	0	1	17	7	7	3	0
計						1,103	260	843	685	418	64	54	289	32	113	154	42	189	84	69	13	527	273	209	84	10
前回まで						599	130	469	302	297	34	41	190	8	80	101	7	50	37	44	7	258	165	123	39	14
ボダイワーク・セミナー	南山短大	グラバア	H4.5/23～7/11	13:00～16:00	土	27	3	24	16	11	0	1	11	0	2	3	0	3	1	6	0	14	7	5	1	0
ユング心理学	〃	木村	H4.7/4.5,18,19		土・日	21	5	16	5	16	2	5	4	1	3	1	0	1	1	3	0	7	3	8	3	0
からだことばのセミナー	〃	竹内	H4.7/24～7/26	3日間集中		31	5	26	12	19	4	0	5	2	1	3	0	8	3	3	2	9	12	8	0	2
Tグループ	清里清泉寮	榎田・伊藤中堀・津村	H4.9/11～9/16 H4.12/6	5泊6日		19	8	11	5	14	0	0	8	0	2	0	1	0	6	0	8	5	5	1	0	
トレーナー・トレーニング	多治見ロダパウス研修センター	中堀・津村山口	H5.2/9～2/13	4泊5日		17	9	8	3	14	1	1	5	1	1	4	1	0	0	2	1	2	11	4	0	
TA入門	南山短大	中堀	H4.10/1～12/10	18:30～21:00	木	31	4	27	18	13	2	0	13	0	1	1	0	3	2	7	2	17	6	5	3	0
TAによる自己啓発	清里清泉寮	中堀	H5.3/20～3/22	2泊3日		9	0	9	4	5	1	0	2	2	2	0	0	0	0	2	0	5	0	3	1	0
計						754	164	590	365	389	44	48	238	14	92	115	8	66	44	73	12	320	209	161	48	16
前回まで						214	75	139	103	111	3	8	43	8	9	98	27	3	1	10	4	88	82	59	30	5
W.S.「教え・育てる人生」	南山短大	河津	H4.7/28～7/30	3日間集中		9	3	6	4	5	1	0	0	0	1	2	0	2	1	2	0	2	4	3	0	0
ファシリテーター・トレーニング	〃	星野	H4.9/26～H5.1/30	14:00～17:00	土	16	3	13	10	6	1	0	5	1	3	2	0	1	0	2	1	4	6	2	4	0
計						239	81	158	117	122	5	8	48	9	13	102	27	6	2	14	5	44	92	64	34	5
総計						2,086	505	1,591	1,167	929	113	110	575	55	218	371	77	261	130	156	30	891	574	434	166	31

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百万都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など35余りの都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在180名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、一泊研修と、1回3時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に、1989年度は第5期生（32名）の基礎訓練を1989年9月から12月に、1991年度は第6期生（34名）の基礎訓練を1991年5月から7月に、1992年度は第7期生（36名）の基礎訓練を1992年5月から7月に実施。又、相談員認定後の相談員には継続研修・スーパービジョンを実施している。1993年度は第8期生の基礎訓練を1993年9月から12月に実施される予定。

基礎訓練のねらい：「自己理解を深める」

- ・自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- ・自分のありのままを表現する。
- ・相手のありのままを聴く。
- ・対人関係（自分との、他人との）の中にある自分のあり方に気づく。
- ・今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談員養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることがらの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1986～1992年度コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講 座 名	主 催
<p>電話相談コンサルテーション スクールODコンサルテーション リーダーとして備えるべきものは何か 情報を大切に教育 人間関係及びグループリーダー研修等 出会い・ふれあい・結婚 ヘルスカウンセリング指導者養成講座 教師と生徒とのコミュニケーション の中でどこまで訊けるか 人と人とのコミュニケーションについて 青少年担当者・指導者養成事業 箱庭療法 箱庭療法研究会 人間関係トレーニング (Tグループ) 「おとしよりの人間関係・チームワーク」体験学習 教師と生徒の人間関係 リーダーシップについて…理論と実践… 習熟度別学習指導について PFスタディーの理論と実践 人間関係トレーニング …自己理解・他者理解のために… 非行少年の箱庭 昭和63年春期アドバンスコース 患者理解を深めるために 箱庭療法ケースセミナー 人間関係をよくするために 女性が学ぶこと、ライフサイエンス カウンセリング講座 学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」 老人福祉関係職員等研修事業 勤労青少年リーダー養成研修会 企業経営＝職場でのコミュニケーション 私学協会教育相談研究会 サークル活動をデザイン 研修・研究の調査 女性講座 気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる グループの中の人間関係 女性管理者養成講座 生徒指導のあり方 なごやかスタッフ養成研修 カウンセリングセミナー グループワークトレーニングの基礎知識 社内研修会「なぜ今“気づき”なのか」 名古屋市民大学「グループリーダーセミナー」 自主グループの研修会 ライフサイエンスをめざすもの 自分を知るプログラムの体験学習 ヒューマン・リレーションズ・ラブ 女性のための自己開発講座 青年リーダー養成講座 人間関係を豊かにするには 人間関係トレーニング 中堅看護婦として自己をふりかえり、 自分の立場を認識する よりよい人間関係を築くために なごや女性カレッジ 「おとしより・同僚と人間関係・チームワーク」 両親のためのコミュニケーション講座</p>	<p>名古屋いのちの電話 聖カピタニオ女子高等学校 東海理化労働組合 遠州カウンセリング研修会 名古屋市各区社会教育センター 名古屋瑞穂青年の家 愛知県教育委員会 愛知県私学協会研究部 東海市教育委員会 愛知県総務部 財団法人関西カウンセリングセンター 兵庫教育大学生徒指導講座 遠州カウセリング研究会 名古屋市民生局 中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会 愛知県労働部 香川県立小豆島高等学校 宝塚市立教育研究所 財団法人関西カウセリングセンター 大阪家庭裁判所 関西カウンセリングセンター 浜松市立看護専門学校 メンタルヘルス研究所、東京 戸塚協会名古屋支部 名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館 愛知県看護協会 名古屋市教育委員会 名古屋市民生局 愛知県労働部労働福祉課 名古屋商工会議所 愛知県私学協会 名古屋市瑞穂青年の家 奈良県教育センター 春日井市いぶき会 名古屋市青年会議所 名古屋市婦人会館 日本経営管理協会中部支部 平和町立平和小学校 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 社会福祉法人あさみどりの会 東海市教育委員会 東海市立青少年センター MMC/マーケティング・マネジメント・センター 名古屋市生涯教育センター 婦人学習相談員グループ 名古屋青年税理士連盟 国立婦人教育会館 聖マーガレット生涯教育研究所 滋賀県立婦人センター 小牧市教育委員会 名古屋市母子施設連盟 厚生連中央看護専門学校 藤枝市立志太総合病院 三重県市町村保健婦協議会 名古屋市教育委員会 名古屋市厚生院 あらたまメンタルクリニック</p>

■ 社会人研修／人間関係研究センター1993年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター
The Center for the Study of Human Relations
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性をもったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ物としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、一人ひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のおふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

基礎研修

対話やコミュニケーションをするときの自分自身の、話し聴く能力、チームワークやリーダーシップなど、小集団の中での有効な人間関係のあり方などを、体験を通して学びます。特別に用意された実習に参加しながら、その体験をお互いに報告し話し合い、まとめていくラボラトリーメソッドを使いますので、単なる講義とは違って、自分自身のあり方そのものを学ぶことができます。

企業人、教育関係者、医療関係者、ボランティア活動家、主婦、学生など、人間や人間関係に関心をもっている方々にとって、最も気軽に参加できる体験学習の機会です。

研修は毎週1回、10週間で1コースになるように計画されています。

第36回人間関係講座（春期・月曜日・午前9：30～12：00）

1993年4月26日

5月10日／17日／24日／31日

6月7日／21日／28日

7月5日／12日

担当者 伊藤 雅子・佐竹 一予

*南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

第37回人間関係講座（春期・木曜日・午後6：30～9：00）

1993年5月6日／13日／20日／27日

6月3日／10日／24日

7月1日／8日／15日

担当者 津村 俊充・寺西 佐稚代

第38回人間関係講座（秋期・木曜日・午後6：30～9：00）

1993年9月30日

10月7日／14日／21日／28日

11月4日／18日／25日

12月2日／9日

担当者 山口 真人・市瀬 英昭

*南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

定員 各回とも30名

会場 南山短期大学

研修費 各回とも21,630円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

専門研修

Tグループ〔人間関係トレーニング〕

Tグループでは、“いま、ここ”の“場”の中に生じているメンバー間のコミュニケーションや相互影響関係を学習の素材として、お互いの気づきをフィードバックしあいながら、自分を学び、人間関係のプロセスと本質を体験的に学んでいきます。それは一つ一つの影響関係がより深い人間関係を生み出し、次第にグループという有機体を形成していく過程の体験でもあります。

Tグループは、最も深く最も集中的に人間関係を学ぶ場として、1947年米国で始まって、その後世界各国で実施されており、人間にかかわるすべての専門職の人々や組織の管理者、人間や人間関係に関心をもっている方、自分の生き方を探っている方、などにとって必須の体験となります。

担当者 星野 欣生・中堀 仁四郎・津村 俊充・中野 清

日程 1993年9月11日（土）～16日（木）5泊6日

フォローアップ1993年12月5日（日）

定員 20名

会場 （財）キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里 3545 TEL (0511) 48-2111

研修費 64,890円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

滞在費は実費（45,000円程度）を別途徴収させていただきます

トレーナー・トレーニング

このセミナーでは、関わりの中で、学び生きることを促進するための技能と態度を、まさに体験を通して学びます。

Tグループを想定した状況の中で、参加者が交代で実際にトレーナー役を務めたり観察者としてグループ状況をフィードバックしたりしながら、メンバーやグループの理解と介入についての理解を深めます。

プログラムの中では随時、ベテラントレーナーを交えてのディスカッションやケーススタディなども行いながら、許容的な雰囲気の中で相互にクリティークを実施することを計画しています。

期待される成果は

- ・カウンセリングなどの基本になる「受容」「共感的理解」「自己一致」や「人間尊重の姿勢」などを、自分自身の生きた姿で点検できます。
- ・体験過程を促進する効果的な言葉かけや介入を学ぶことができます。
- ・組織や学級運営に役立つグループプロセスを観察・診断するスキルを修得できます。
- ・グループメンバーを尊重しながらグループを促進するように介入するスキルを修得できます。
- ・自分自身の介入の問題点や可能性を探ることができます。

*参加者の関心に応じて、スケジュールの中にラボラトリーのデザインの問題や具体的なプログラミングの問題なども取り上げることができます。

担当者 中堀 仁四郎・津村 俊充・山口 真人

日 程 1994年2月9日(水)～13日(日) 4泊5日

定 員 18名

参加資格 Tグループ、エンカウンターグループなどの構造化されていないグループ体験のある方、または、それらに準じた体験学習を経験しておられる方で、トレーニングスキルの修得を目的にしている方。

(不明な場合はセンターまでお問い合わせ下さい)

会 場 (財)キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里 3545 TEL (0511) 48-2111

研修費 84,460円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

滞在費は実費(40,000円程度)を別途徴収させていただきます

T A入門〔トランザクショナル・アナリシス〕

T A (Transactional Analysis) はエリック・バーン博士(1910-1970)により開発され、のちに彼の仲間たちとともに発展させられた心理療法の体系です。

T Aは、わたしたち誰もが基本的には“ I'm OK You're OK ”の存在であるという価値観に基づいています。“今、ここ”に気づき、自らが自分の在り方を選びながら、自分のOKであることを確かめ、また相手とも肯定的な関係を作り出していきます。

T Aは心理療法として発達しましたが、私たちの自分自身との関係や他者との関係の改善、楽しい職場や家庭づくりなどに大いに生かすことが出来るものなのです。

この講座ではT Aの基本的な考え方を理解し、体験学習の方法を用いて自己理解を深め、成長への手がかりをつかむことをねらいにします。

担当者 中堀 仁四郎

日 程 1993年8月25日(水)～27日(金)3日間集中(通い)

定 員 24名

会 場 南山短期大学

研修費 22,660円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

T Aによる自己啓発

T Aを中心に、ゲシュタルトセラピーなどの考え方もとりいれながら、自己に焦点をあてます。ゆったりとした環境の中で、グループで助け合いながら、自分をふりかえったり、自分の可能性を探ったりして、エネルギーを充電する時としたいと思っています。

参加する人には、理論を学ぶよりも、自分自身に光を当ててみる、自分の可能性を確かめてみるといったことを期待しています。原則として、T Aの入門のコース(当センターでなくてもよい)を経験されていることを望みます。

担当者 中堀 仁四郎

日 程 1994年3月20日(日)～22日(火)2泊3日

定 員 16名

会 場 (財)キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545 TEL (0551) 48-2111

研修費 29,870円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

滞在費は実費(25,000円程度)を別途徴収させていただきます。

ボディーワーク・セミナー

21世紀に向けて、未知の大海原をひたすら航海を続けている私たちですが、様々な変化の中、今までにかかれた海図に頼ってられない気がします。また雲行きもあやしく、これから大きな嵐に遭遇しそうな気配です。そのような今、私たちはどのように方向を見定めていけばよいのでしょうか。一つの方策として、地球上に育まれてきた命としての人間というところに立ち返り、私たちのもつ三つの叡知（あたま・こころ・からだ）を見直してみたいと思います。

呼吸をしていること
ゆったりしていること
感じとること
生き生きしていること

これらをじっくり味わうことから始めたいと思います。

担当者 グラバア 俊子

日 程 毎週土曜日8回午後1:00～4:00

1993年5月8日/15日/29日

6月5日/12日/19日/26日

7月3日/10日(予備)

定 員 20名

会 場 南山短期大学

研修費 22,660円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

からだとことばのセミナー

人と人と向きあい、近より、ふれ、かかわり、そして応え、ことばを交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してゆくことを試みてみたいと思います。

- ・ひとにふれ切れない自分に気づく
- ・自らのからだのこわばりに気づく
- ・からだをときほぐす
- ・感じるままに動く
- ・他者に働きかける
- ・ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出してきたらいいなと思います。

担当者 竹内敏晴

日 程 1993年7月20日(火)～22日(木)3日間集中(通い)

定員 30名

会場 南山短期大学

研修費 36,050円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

ユング心理学

ユング心理学の分野は幅広く、その理論は難解で、解説書によって受動的に理解するにとどまりがちです。

この講座では、講義によってユング心理学について学ぶのではなく、ユング心理学の考えを軸にして、自分自身についての気づきと理解を深めることを試みようと思います。

具体的にはラボラトリー・メソッドを用い、用意された実習の中で自己表現をしたり、話し合ったりしながら進めていきます。

今回はシャドー、及びタイプをテーマにプログラムを考えています。

能動的に参加し、体験を通してこれまで知らなかった自分に出会っていきましょう。

担当者 木村 晴子

日程 1993年7月3日（土）・4日（日）・18日（土）・19日（日）

定員 24名

会場 南山短期大学

研修費 22,660円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

*日本ユングクラブ東海支部の協賛として行います。

セルフサイエンス・セミナー

日常生活や職場の中で、不快感だけが残るような結末の人間関係を経験されていないでしょうか？この研修ではそうした自分の対人行動のありかたを客観的に見つめるトレーニングを行います。学習の方法は『体験学習』を中心に行います。とりわけ、ウェインシュタイン教授（University of Massachusetts）が提唱するトランペット・セオリーに基づいて、細分化されたステップで『体験学習』を行います。同時に、自分の対人関係のあり方を客観的にとらえるために、また自分への気づきを深めるために、いくつかのスキルトレーニングと認知モデルを提供します。

最終的には、そうしたトレーニングによって、自然科学者のように客観的に自分自身をとらえる目を養うことにあります。それ故、『セルフ・サイエンス』というタイトルが付けられています。

この研修はウェインシュタイン教授がマサチューセッツ大学において「セルフサイエンス」のプログラムの一貫として行っている「Education of the Self」の授業をベースに実施します。

担当者 津村 俊充

日 程 毎週金曜日12回午後6:30~9:00

1993年9月24日

10月1日/8日/15日/22日/29日

11月5日/19日/26日

12月3日/10日/17日

定 員 25名

会 場 南山短期大学

研修費 27,810円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

ゲシュタルト・アウェアネスセミナー

誰もが自分の中心に“生きるエネルギー”をもっています。しかし、日常生活の中では表面的な人間関係や役割関係の中に埋もれてしまうことが多く、本当に自分のもっているエネルギーに触れることはむずかしいものです。

セミナーでは、自分の感情や身体や空想など“いま・ここ”で自分自身が体験していることへの気づき(アウェアネス)を高め、そこに浮かび上がってくる自分の“図”になっている部分とその背景になっている“地”の部分との分裂や対立や固着の存在を明確にすることに取り組みます。これらの分裂や対立や固着は、自分の中の実存的なエネルギーに触れることによって流動化し、自分自身の主体としての統合性を高めることによって、他者や環境への受動的依存的な生き方を主体的相互的(自立的)な生き方へと変革することを可能にするでしょう。

セミナーでは、自分自身を語り、情動を表出し、実験し、できる限り“いま、ここ”を“ありのまま”に生きることが勧められます。そのために“やりたくないことはやらなくてよい”ということを原則とします。

担当者 山口 真人

日 程 1993年8月28日(土)・29日(日)

9月4日(土)・5日(日)

定 員 12名

会 場 南山短期大学

研修費 23,690円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

特定研修

ワークショップ「教え・育てる」

耕された田畑に作物が豊かに育つように、豊かな人生が花開く土壌としての自己を耕すことがこのワークショップのねらいです。

わが子を育てることで人生を充実したものにしてく親としての人生、子供たちを教え育てることで人生を充実したものにしてく教師としての人生、いずれにおいても鍵となるのは、大人であるわたしたちが自分自身の中に、内なる「子供」をよみがえらせ生き生きと息づかせることです。

自分の中に「幼児」や「児童」や「青年」が生き生きと息づいている親や教師は、幼児や児童や青年と自分らしくしなやかにかわり、お互いを生かしあう関係を築くことができます。親として教師として、そして人間として生き生きと生きる人生に目を向けていただけたらと願っています。

担当者 河津 雄介（聖霊短期大学・百芳教育研究所）

日程 毎週月曜日5回午前9：30～12：00

1993年11月8日／15日／22日／29日

12月6日

定員 20名

参加資格 教育に関心の深い方

会場 南山短期大学

研修費 18,025円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

ファシリテーター・トレーニング

このセミナーは、組織の中で教育にたずさわっている方や教育に関心をもっている方々がともに集い、体験学習の実習を計画実施・参加しながら、体験学習の推進者（ファシリテーター）としての自己のスキル（技能）開発に取り組み、さらにセミナーでのお互いの体験をふまえて広く教育の問題を考えていきたいと思っております。

セミナーのねらい

1. 体験学習とは何か、その現状・問題点・将来の方向などを探る。
2. 教育推進者（ファシリテーター）として、自分の教育観、姿勢、学習者とのかわり方などを検討する。
3. 組織内教育のさまざまな展開方法を探り、プログラムをつくり実施するスキルを養う。
4. 参加者相互のかわりを深める。

（相互理解、チーム作り、情報交換など）

担当者 星野 欣生

日 程 毎週土曜日13回午後2:00~5:00

1993年9月25日

10月2日/9日/16日

11月6日/20日

12月4日/18日

1994年1月8日/22日/29日

2月5日/12日

定 員 18名

参加資格 何らかの体験学習を経験したことのある方

(不明の場合はお問い合わせ下さい)

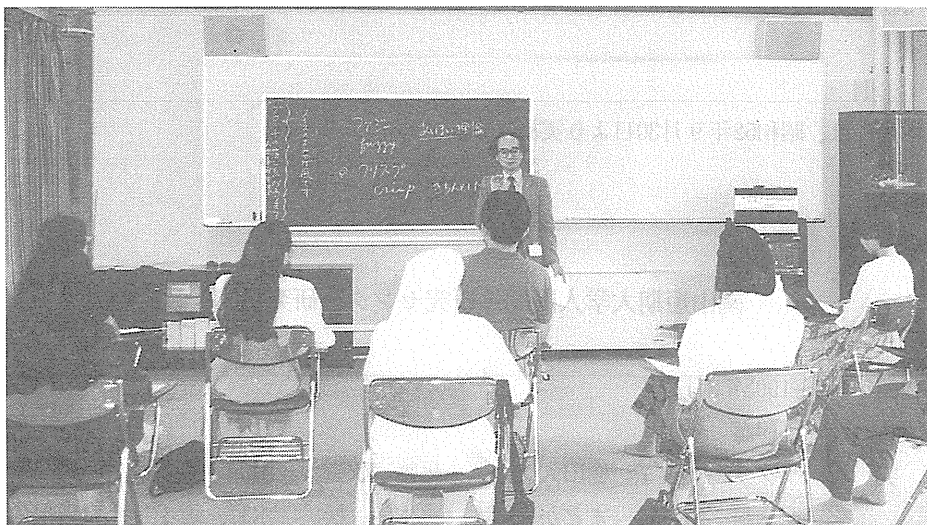
会 場 南山短期大学

研修費 48,410円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

【問い合わせ先】南山短期大学人間関係研究センター

TEL.052-832-6214(内線268)

FAX.052-832-6210



南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

- ② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

- ② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

- ② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1992年4月～1993年3月）

センター長	伊藤 雅子					
研究員	グラバア俊子	樋田大二郎	星野 欣生	市瀬 英昭	河津 雄介	
	木村 晴子	まどか庸代	宮本 桂	水野 道子	文珠紀久野	
	中堀仁四郎	中野 清	大森 正樹	R.A.メリット	竹内 敏晴	
	津村 俊充	山口 真人	(A B C順)			
事務局	牧 香里					

編 集 後 記

本紀要「人間関係」も第10号を迎えることになった。一つの節目の号にふさわしい特集をと思い、本年度初めに「人間教育の核心—学ぶこと・変わること—」をテーマに設定した。このテーマのもと、これまでの人間関係科および人間関係研究センターの教育・研修の根底に触れていくことと、これからの我々の歩むべき道しるべを探っていこうという企画であった。そのためにセンターの研究員のさまざまな視点からの「教育の核心」を記述してもらおうという意図で編集を開始したのだけれども、研究員にとって日々の教育活動が忙しく、十分な投稿数が得られなかったことを残念に思っている。また、そのことは編者の不徳のいたすところでもある。

とはいえ、「林竹二先生について」の竹内・星野・米沢3氏による対談形式の論文は、学ぶことは変わることを主張されてきた林竹二先生の教育の核心に触れながら、本来の教育とは何かを考える大切な視点を提供してもらえたのではないだろうか。他に、大森、伊藤各氏による変わることをめぐる短編ながら興味深い論文を投稿して頂いたことをこの場を借りて御礼を申し上げたい。

また、村上陽一郎先生におかれましては非常にお忙しい中、特別研究会のために我が南山短大までお越し下さり、貴重なお話をお聞かせくださったこと、また研究会の内容を本誌に掲載するために丁寧に逐語録に目を通して頂いたことを厚く御礼申し上げます。

本年度は、人間関係科創設20年目、人間関係研究センター設立15周年を記念し、ナカニシヤ出版より「人間関係トレーニング—私を育てる教育への人間学的アプローチ—」を刊行し、私どもの研究活動の一部を世に問うことができた年でもある。お蔭様で多くの方々より、当研究センターへの体験学習を用いた教育・研修に関するお問い合わせも多くなってきている。人間関係研究センターの活動もやっと日本各地に根を下ろしかけた、いや種が蒔かれ始めたといった方がいいかもしれない記念すべき年となったであろう。

そのような研究センターの活動も新しい展開の時期にあって、本紀要は人間教育の実践のための重要な機能をますます果たすことになるだろうし、また初心に戻り、実践家をはじめ研究者の方々にとっても有益な情報源になるような研究機関誌に育てていかなくてはならないと、痛感している次第である。

そのためにも、読者の方々の屈託のないご意見・ご批判を戴き、本紀要を充実したものにしたいと考えている。

(津村 俊充 記)

目次

特別講演 コンティンジェンシー理論について—現状と課題— 野中郁次郎 2
特集 「Tグループ」
JICEラボラトリー—トレーニングの変遷(その1)— 中恵仁四郎 11
高等教育におけるTグループの実践— 星野 欣生・山口真人 36
人間関係科Tグループ実践をめぐって— 塚 藤 会 77
Tグループによる学習過程理解のための方法的研究(1)
—学生の形容詞調査による学習理解への多文化的アプローチ— 津村 俊光 90
Tグループに於ける女性
—規範と性別役割による変遷の問題点— KANTER・倉澤俊之 99
専載報告 (1977年~1983年)
I 研究会
1. 「コンティンジェンシー理論について」—野中郁次郎(一橋大学) 108
—現状と課題—
2. 「大学教育におけるTグループ適用の試み」—星野 欣生(南山短大)
—教育の変革を求めて— 山口 真人(南山短大) 109
3. 「これからのカウンセリングのあり方」—小林 純(上智大学) 111
4. 「わたしの歩んできた道」—福山 徳嗣(上智大学) 113
5. 「ヒューマニスティック・エデュケーション
の動向と自己成長への身体的アプローチ」—グラババ 俊子(南山短大) 116
6. 「アパーと教育」—我と我を中心にして— 真行寺 功(金沢短大) 118
7. 「With-nessということ」—星野 欣生(南山短大) 120
—教師・学生関係について—
8. 「関係の神学」—興村 聖(聖女学院短大) 122
9. 「教育を志すなむ」—伊東 博(横浜国立大) 126
10. 「からだ、ことば」—竹内敏晴(宮城教育大) 128
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 132
2. 人間関係専門研修講座 134
3. 人間関係特定研修講座 137
4. 社会人研修参加者統計 140
5. 1984年度社会人研修予定 141
III 南山短期大学人間関係研究センター規程 142
IV 南山短期大学人間関係研究センター研究員 143

目次

特別研究会 人間関係の教育—体験学習— 河合 雄雄 2
特集 「人間教育における体験学習」
I 高等教育における体験学習
1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観— 星野 欣生 39
—10年の歴史と展望—
2. 人間関係科における教育の試み— R.A.メリット 47
—児童された体験学習—
3. 「人間関係科における体験学習」—柳原 光 64
—トレンディズムから学習へ—
II 南山短期大学人間関係科の10年
1. 教育の概観
—座次の授業の流れ— 83
1) キリスト教概論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ—宮本 隆 84
2) 人間関係概論Ⅰ(哲学的基礎、問演習)—柳原 光 89
3) 人間関係概論Ⅱ(哲学的基礎、問演習)—倉澤 俊之 95
4) 人間関係概論Ⅲ(心理学的基礎、問演習)—グラババ 俊子 100
5) 人間関係概論Ⅳ(社会的基礎、問演習)—山口 真人 106
6) 人間関係研究法(その1)—星野 欣生 114
7) 人間関係研究法(その2)—星野 欣生 117
—フィールドワーク—
—座次の授業の流れ— 123
8) 人間関係各論Ⅰ(家庭に関する領域)—伊藤 雅子 124
9) 人間関係各論Ⅱ(組織・集団に関する領域)—山口 真人 132
10) 人間関係各論Ⅲ(文化に関する領域)—高田 茂彦 136
11) 人間関係各論Ⅳ(教育に関する領域)— R.A.メリット・倉澤俊之 141
12) 人間関係各論Ⅴ(援助法に関する領域)—グラババ 俊子 145
13) 人間関係総合実習(全修)—山口 真人 150
14) 人間関係基礎演習Ⅱ(卒業研究)—星野 欣生 156
2. 学生の学びとその軌跡
1) 入学2年次と卒業後5年間の個人の成長記録から—倉澤 俊之 162
2) 卒業生の生活調査から—倉澤 俊之 179
3. 人間関係科に新しくかわる教員として
1) 教師と学生のかかわりをめぐって—木村 晴子 205
—心理臨床分野の教員として—
2) 「体験学習」を哲学する—中野 清 208
—体験と知とコトバ、知の権限を求めて—
投稿 JICEラボラトリー—トレーニングの変遷(その2)— 中恵仁四郎 217
専載報告 (1984年)
I 研究会
1. 「もう一つの主軸—商店のおかみさんたち」—天野 正子(千葉大学) 269
2. 人間関係科における体験学習—グラババ 俊子(南山短大) 270
3. 「体験学習と理論学習をめぐって」—中野 清(南山短大) 273
—昇格をめぐって—
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 277
2. 人間関係専門研修講座 279
3. 人間関係特定研修講座 281
4. コミュニケーション— 283
5. 社会人研修参加者統計— 285
6. 1985年度社会人研修予定— 286
III 南山短期大学人間関係研究センター規程— 288

目次

特別研究会 人間関係と自己表現— 竹内 敏晴 2
特集 「自己表現」
I 自己表現ワークショップからの報告
自己表現ワークショップの概要— 山口 真人 33
ワークショップ1「私の夜間作り」—木村 晴子 36
「自由にならぬ、怒るままに！」—倉沢 俊之 46
「クリエティブ・ペインティング」—山口 真人 53
「オйл・ドローイング」— 40
「情熱とスペイン舞踏—感情と表現—」—まどか 麻代 71
「絵本づくり—誕生—」—文庫紀久野 86
II 自己表現をめぐっての考察
1. チームづくりと自己表現— 星野 欣生 93
2. 神秘体験にみる自己表現— 大森 正樹 98
3. 現代文化と自己表現— 植田大二郎 102
ミニレクチャー
体験学習— 星野 欣生 109
プロセスとは何か— 津村 俊光 116
コミュニケーション・プロセス— 山口 真人 120
邦訳ミニレクチャー
センシビリティ・トレーニングとは何か— Charles Seashore (津村俊光訳) 125
グループ—その誕生から死までのサイクル— Richard C. Weber (津村俊光訳) 130
レポート
人間関係研究センター—社会人研修
「人間関係基礎研修の理論と実際」— 津村 俊光 137
客員研究員から報告
「私の人間関係体験学習の中で」— 高平百合子 150
専載報告 (1985, 1986年度)
I 研究会
1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」— 澤田 慶輔 153
2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」— まどか 麻代 155
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 158
2. 人間関係専門研修講座 159
3. 人間関係特定研修講座 162
4. コンサルテーション 164
5. 社会人研修参加者統計 166
6. 1987年度人間関係研究センター—事業予定— 167
南山短期大学人間関係研究センター規定— 169

目次

巻頭言— 星野 欣生
特別研究会 「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」— 河津 雄介 2
特集/グループの中に生きる
1. 個を生かす集団・集団を生かす個— 星野 欣生 45
2. キリスト教における個と集団— 市瀬 英昭 50
3. 現代科学における個と集団の問題をめぐって— まどか 麻代 55
—原子論からバイオホロニクスの発想まで—
4. 人間関係科の教育における個と集団— 山口 真人 69
—関係に定位した教育の実現をめざして—
5. 「個」と「集団」— 横山 彰 77
—合流教育実践からの考察—
6. チームづくりのトレーニングと組織開発— 星野 欣生 91
山元由美子
猪熊 京子
7. 企業内研修におけるグループ・トレーニング— 松本 寛之 121
田辺 昂
8. 南山短大における集団不適合— 木村 晴子 130
—学生相談室開設に向けての報告—
ミニレクチャー
援助するということ— 竹内 敏晴 139
態度価値と責任性存在— 大森 正樹 144
対人感受性の開発— 山口 真人 149
—人間関係トレーニングの原理と実際—
レポート
NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング— 津村 俊光 157
専載報告 (1987年度)
I. 研究会 171
II. 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 175
2. 人間関係専門研修講座 178
3. 人間関係特定研修講座 180
4. コンサルテーション 183
5. 社会人研修参加者統計— 185
6. 1988年度人間関係研究センター—事業予定— 186
南山短期大学人間関係研究センター規定— 190

目次

巻頭言 伊藤 稚子
特別研究会:「自己との対話 十年の図」 柳田 聖山... 1
「水月の極意村中墨のこと」 上原 輝男... 36
特集/対話
1. 対話の生 宮本 佳... 49
2. からだの対話 竹内 敏晴... 57
3. Cross Cultural "Dialogue" in the Age of Commodity Culture R. A. メリット... 72
4. 典礼一神と人との対話 市瀬 英昭... 89
5. 神との対話としての折りとアイコン 大森 正樹... 93
6. 聴くということ 木村 晴子... 97
7. 専門化社会とせっかい 樋田大二郎... 103
一教師と生徒の対話についての一考察
8. 科学者と宗教人との対話 まどか庸代... 115
投稿:〔翻訳〕人間学 O. マルカド(中野 清訳)... 127
レポート:教師のためのセミナー 山口 真人... 147
ミニレクチャー:
アクション・リサーチ 星野 欣生... 155
人間関係の改革 山口 真人... 160
一社会的感受性と人間関係のスキル
事業報告 (1988年度)
1. 人間関係基礎研修講座... 168
2. 人間関係専門研修講座... 171
3. 人間関係特定研修講座... 177
4. コンサルテーション... 180
5. 社会人研修参加者統計... 182
6. 1989年度人間関係研究センター事業予定... 183
岡山短期大学人間関係研究センター規定... 187

目次

巻頭言 津村 俊充
特別研究会:「体験学習とキリスト教教育」 坂口 順治... 1
特集/Tグループ再考
1. Tグループの倫理 中堀仁四郎... 35
2. Tグループと霊性教育 まどか庸代... 49
3. Tグループに関する2つの考察 木村 晴子... 60
4. ラボラトリ教育におけるプログラミングについての考察 津村 俊充... 67
一Tグループを中心にした教育実践に向けて
5. トレーナーになること 星野 欣生... 79
6. 対話的教育-M. ブーバーの教育論をめぐって 宮本 佳... 89
7. 学生ととしてのTグループの意味 文珠紀久野... 99
8. Tグループに思う
(1) 悪い気づき R. A. メリット... 136
(2) Tグループトレーニングの場に臨むとき 會澤 俊三... 138
(3) Tグループで思うこと 大森 正樹... 141
(4) Tグループ実践への経験と家族 伊藤 稚子... 143
(5) Tグループ実践への提案 津村 俊充... 146
一私のTグループ体験から
(6) wendepunkt-私のTグループ グラバア俊子... 150
(7) Tグループ疑惑 竹内 敏晴... 153
レポート:Tグループの実務 浜本孝子・河原紀久子... 155
岡山短期大学人間関係科でのTグループ合宿の動向 星野 欣生... 173
ミニレクチャー:
Tグループ 山口 真人... 179
TグループQ&A 星野 欣生... 189
人間関係とフィードバック 津村 俊充... 199
効果的なコミュニケーションのための5つの要素 中堀仁四郎... 203
事業報告 (1989年度)
1. 社会人研修概要... 209
2. 人間関係基礎研修講座... 210
3. 人間関係専門研修講座... 213
4. 人間関係特定研修講座... 215
5. コンサルテーション... 217
6. 社会人研修参加者統計... 219
7. 1990年度人間関係研究センター事業予定... 220
岡山短期大学人間関係研究センター規定... 225

目次

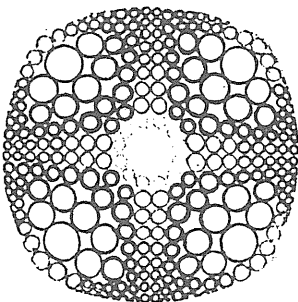
巻頭言 星野 欣生
特別研究会:「日本に於ける生涯学習の動向」 那須野焼... 1
特集/生涯学習の実践 一学びてなまらぬに
1. 生涯学習と体験学習 星野 欣生... 41
2. いま生涯学習に期待されるもの 伊藤 稚子... 55
一生涯学習と体験学習的人間関係教育
3. 第二の大航海時代の生涯学習 グラバア 俊子... 81
4. 生涯の大事 竹内 敏晴... 94
5. 生涯教育方向性 リチャード・A・メリット... 100
6. 「生涯学習」難感 河津 雄介... 103
7. 人間関係基礎研修の理論と実際 津村 俊充... 106
8. ボランティア活動と生涯学習 青木明子・山口真人... 119
一いのちの電話活動におけるボランティア相談員の成長
9. セルフ・サイエンス 津村 俊充... 130
一自己認識を深めるためのトレーニング
10. ドストエフスキーを読む 大森 正樹... 139
一大人の読書会をやって
11. 想起一礼拝における学び 市瀬 英昭... 142
12. 体験を通して「からだところ」の健康づくり 石田 華栄... 146
13. 「体験学習」と自己理解 寺西佐雄代... 150
一学生から教師という立場になって思ったこと
14. 私の教育メモ 吉川 勇枝... 154
ミニレクチャー:
体験学習と学習ジャーナル 一自己理解を深めるために 津村 俊充... 159
介入ということ 一構造化された実習において 星野 欣生... 167
ふりかえりについて 一体験学習において 星野 欣生... 173
事業報告 (1990年度)
1. 社会人研修概要... 177
2. 人間関係基礎研修講座(一般研修)... 178
3. 人間関係専門研修講座(継続研修)... 181
4. 人間関係特定研修講座... 183
5. コンサルテーション... 185
6. 社会人研修参加者統計... 187
7. 1991年度人間関係研究センター事業予定... 188
岡山短期大学人間関係研究センター規程... 193
あとがき 一生涯学習制度化の理念 まどか庸代... 194

目次

巻頭言 中堀 仁四郎
特集/からだ
1. 鼎談:折るからだ 竹内敏晴・市瀬英昭・中野清... 1
2. 「奇蹟物語」にみる「からだ」の姿容 (市瀬英昭)... 36
3. 「表現するからだ」走り書き (竹内敏晴)... 46
4. 「自己理解のふりかえりとしての「からだへの気づき」 (寺西佐雄代)... 53
特別研究会:「内側からみる」 (佐伯 計)... 61
研究ノート:
授業記録:人間関係論(1989-90年度)
~学生とともに人間関係の原点をさぐる~
(竹内敏晴・山口真人・グラバア俊子・中野清)... 107
教育に目的があって、情熱を抱いてはいけないのか
グランド・ストーリーなきあとの教育 (樋田大二郎)... 147
ファジィとラボラトリー(体験学習) (星野欣生)... 166
ミニレクチャー:
成長するための「枠」-人間教育のひとつの意味- (木村晴子)... 175
コミュニケーションのプロセスとその障害要因 (津村俊充)... 181
非言語コミュニケーション-からだの語ること- (グラバア俊子)... 188
事業報告 (1991年度)
事業概要... 193
社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座(一般研修)... 194
2. 人間関係専門研修講座(継続研修)... 197
3. 人間関係特定研修講座... 198
4. 社会人研修参加者統計... 199
コンサルテーション... 200
1992年度人間関係研究センター事業予定... 202
岡山短期大学人間関係研究センター規程... 209

編集者 津 村 俊 充

人間関係 第10号
1993年 3 月 20 日 発行



編集発行者 〒466 名古屋市昭和区隼人町19番地
電話 (052) 832—6 2 1 4・6 2 1 1
FAX (052) 832—6 2 1 0
南山短期大学人間関係研究センター
代表者 伊 藤 雅 子

印刷所 (株)尾頭橋印刷所
名古屋市中川区南脇町3丁目20番地
電話 (052) 351—6 2 3 1番(代表)